

さんぽ

令和元年度
冬季号

発行所 清風園

〒694-0013 大田市川合町吉永1025
電話(0854)82-5300 Eメール seifu@ssw.or.jp



◇トピックス◇

園長挨拶・リスクを考える／障がい者アート作品展／ろうきん文化祭／クリスマス会／マス会／演劇鑑賞会／多根神楽演舞／餅つき会

園長挨拶

令和二年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より、清風園の運営に対し、ご支援を賜り心よりお礼申し上げます。皆様方のお力添えをもちまして、穏やかな新春を迎えることができました。

令和元年、清風園は開設四十周年を迎えました。その節目に記念誌を発行して変遷を振り返りました。改めまして、寄稿いただいた皆様には感謝申し上げます。また、昨年はラグビーのワールドカップがあり、日本チームが掲げた「ワンチーム」という言葉が、流行語大賞に選ばれました。日本人選手と外国人選手、若手とベテランが混在する中、「一体感のある組織を目指す」を掲げられたものだという事です。チームとしての理念を掲げ、文化を創り上げられる過程において、身体面ならず精神面の苦労は並大抵のものではなかったと察しています。組織は多様な人材で成り立っています。清風園の一〇二名の職員がワンチームとして、一人ひとりの知識、経験などをまとめ一体となってつよく優しく元気ある組織を目指していきたいと思っております。本年もよろしくお祈りいたします。



「リスクを考える(一)」土砂災害に備えて

昨年、多くの台風が日本列島を襲い、多くの災害をもたらしました。記憶に新しいのは、十月十二日に関東、甲信、東北地方に記録的な豪雨で、甚大な被害をもたらした台風十九号があげられます。この時は全国で三十一の障がい児、者の施設が浸水などの被害を受けたとのことでした。その日は、清風園でもふれあい祭を急遽半日開催にしましたが、進路が変われば大変な事態に至ったかもしれないと振り返っているところではあります。

さて、今回は、土砂災害対策について触れてみたいと思います。立地状況ですが、清風園の建物の南西側の一部が土石流の警戒区域となっています。土石流の対策として平成十五年に園の東側の沢百段の上流に大きな砂防ダムが建設されました。年に一度は、区域に該当する棟を対象にすみやかに避難できるように訓練を実施しています。ほかには、吉永上に立地するグループホームが地すべりの警戒区域になっています。こちらのホームも、訓練を重ねて災害への対応力を高めています。二〇一



備蓄倉庫には、3日分の水・食料、感染症のまん延防止の備品などを保管しています。先日、第三者委員の方に確認いただきました。

八年四月の島根県西部地震や同年九月の大雨の時も予防的に清風園への避難を行ってきました。今、清風園では、大地震等の自然災害などの不測の事態が発生しても重要なサービスを中断させない、中断しても可能な限り早期に復旧させるための方針、体制、手順を示した事業継続計画の策定を進めています。利用者様、職員の安全確保、事業の継続、地域への貢献などの視点で災害発生時に、リスクが少しでも減少するように検討しています。また、ノウハウを持った人材育成も重要と考えます。島根県社会福祉協議会が設置した福祉関係団体が連携して活動する「しまね災害福祉広域支援活動(しまねDJAT活動)」の一環で行われる福祉専門要員の育成研修への参加など積極的に取り組んでいきます。

障がい者アート作品展

令和元年十二月六日(金)〜八日(日)にかけて、「島根県障がい者アート作品展」が島根県立美術館で開催され、清風園からも十一名の方が出展されました。出展に向けて、利用者様がひたむきに作品作りに取り組み、職員が画風やテーマなどを一緒に考えながら作品を仕上げてきました。出来上がった作品が、このアート展で多くの方に鑑賞して頂けた事は、利用者様にとっても、私たち職員にとっても嬉しく、感慨深いものがありました。

今回はさらに嬉しい事がありました。ひかりユニットの竹下マサエ様の作品が、銅賞に選ばれた事です。三十八点の作品の中から選ばれた事は、今後の更なる励みに繋がる事と思います。私たち職員も、利用者様の励みとなる事を今後も考えつつ、寄り添っていく事の大切さを改めて感じました。



受賞作品「いろとりどり」

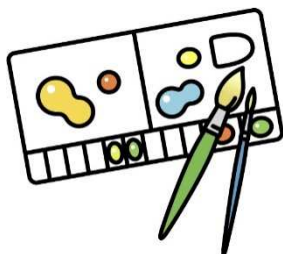


第四回ろうきん文化祭

十一月十五日(金)〜十六日(土)、中国労働金庫大田代理店で第四回ろうきん文化祭が開催され、今年も利用者様の作品を展示させていただきました。

デッサンや色紙を使ったちぎり絵、アイロンビーズのコースターなど多様な作品が展示されました。大きな画用紙を使ったものなど迫力のある作品もありました。作品それぞれが独創的で且つ作者の思いが込められており、どの作品も輝いていました。

作品を作られた利用者様もろうきん文化祭に足を運ばれました。自身の作品が展示されていることにとっても喜んでおられました。来年の展示に向けて意気込んでおられる利用者様もおられました。利用者様の作品が地域の方々の方に触れる貴重な機会を今後も大切にしていきたいと思えます。





クリスマス会



令和元年十二月、クリスマス会が催されました。クリスマスメニューやケーキを食べ、職員によるハンドベル等の各アトラクション、サンタさんからのプレゼントと普段とは違った催し物を楽しみました。

女子棟



男子棟



せいふう

グループホーム演劇鑑賞会

十二月十三日(金)、第四十四回クリスマスチャリティー公演 劇団四季ミュージカル「はだかの王様」に招待していただき、グループホームから三名の方が観劇されました。

出雲市市民会館で十三時開場のため、出雲市内で食事をとりました。バイキング方式の食事は初めてで、皆様嬉しそうに好みの料理を選び食事を楽しまれました。ミュージカルも初めての体験でしたが、華やかな衣装、感動的な演出や踊りに皆様感激しておられました。劇団四季の方々と歌や踊りを一緒に楽しみながら、クリスマスの良い思い出になりました。



はだかの王様



2019 日産流通NPOセンター せうらい
第44回 クリスマスチャリティー
主催：日産流通
協賛：日産流通NPOセンター
共催：一般財団法人社会福祉センター
後援：内閣府、文部科学省、厚生労働省
協賛：日産自動車株式会社、日産自動車販売株式会社
協賛：安田生命保険協会の会、日産自動車販売株式会社
日産流通NPOセンター せうらい 2019.12.13

多根神楽演舞

十二月一日(日)、多根神楽団の皆様にお越しいただき神楽を舞っていただきました。鬼や大蛇が、利用者様の傍まで来てとても躍動感がありました。

一緒に踊られる方や大蛇に驚かれる方など各々に鑑賞しておられました。改めて、多根神楽団の皆様にはお礼申し上げます。



餅つき会

十二月十七日(水)、清風園の地域交流スペースにて餅つき会を行いました。毎年盛り上がりを見せるこの行事ですが、今年も多くの利用者様が杵で臼の餅をつかれ、大盛況でした。皆様力いっぱい餅をつき、年末の雰囲気を楽しめました。用意した餅だけでは足りず、クッションを餅に見立てた「なんちゃって餅」で餅つきを楽しまれました。日頃のストレスも発散できたかもしれません。つき終わった本物の餅は、利用者様と職員で食べやすい形にこねていきました。餅が完成した後は、ユニットに戻りついたらばかりの餅を使ったぜんざいを召し上がられました。

利用者様から「餅をつけて楽しかった」「ぜんざいが美味しかった」といった声が上がっていました。



編集後記

本誌を持ちまして今年度のさんべっこの発行は最後となりました。今年度は清風園開設四十周年の節目の年であり、そのような年にさんべっこ編集者として携わることができ、大変うれしく思います。一年を通して様々な行事や清風園の様子をお伝えしていく中で利用者様の笑顔にたくさん出会うことができました。来年度も多くの笑顔にあふれたさんべっこを皆様にお届けしていきたいと思えます。一年間ありがとうございました。

